

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1475100838	事業の開始年月日	平成17年11月1日
		指定年月日	平成17年11月11日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家新川崎		
所在地	(212-0054) 神奈川県川崎市幸区小倉3丁目12-2		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	9 ユニット
自己評価作成日	令和3年12月2日	評価結果 市町村受理日	令和4年2月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様皆様が安心して暮らせる様な環境づくりを目指しています。ご利用者様の心情に寄り添い、不安を解消出来るようにまず傾聴することを第一としています。その上で毎日のレクリエーションや、外出・散歩・買い物などで好きな事ややりたいことを続けられる様な支援を行っています。職員のペースで動いてもらうのではなく、ご自分で行動を選択し決定出来る様な余裕ある生活リズムを目指しています。コロナウイルスでの不安等が解消できるようホーム内が笑顔でいられるよう明るいホームを心掛けています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年12月20日	評価機関 評価決定日	令和4年2月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR横須賀線「新川崎」駅から川崎市営バスに乗り約4分の停留所「小倉」下車から徒歩4分、または新川崎駅から徒歩で20分ほどの静かな住宅地に立地しています。近隣には保育園や小学校、公園、コンビニエンスストアなどがあります。

<優れている点>

法人が身体拘束や虐待防止などの研修を多く行っており、職員間で実際の介護の状況を体験して話し合いをするなど意識の共有がなされています。経験豊富な職員が長く勤めており、利用者を良く理解し長く培ってきた関係性があるため、利用者が安心して生活できるよう努めています。看取りの実績は多くありますが、入居時には看取りを前提とせず、利用者と家族に寄り添いながら状況によって対応するようにしています。

<工夫点>

コロナ禍で外出して体を動かすことが難しいため、DVDを使ったNøAエクササイズ（頭と脚の機能体操）を毎日昼と夜の2回行っています。また、法人が提供しているリモート体操を月に2回やALSOKあんしんヨガ、いきいきリズム体操など、さまざまな企画を行い利用者が楽しみながら体を動かせるように健康増進に力を入れています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみんなの家新川崎
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	94
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員全員で理念を考え集い共有している。	「心つないで手をくんで」とあるように職員が一つになって、利用者が生活しやすい場、楽しく過ごしてもらう場を提供できるよう努めています。6年ほど前から現在の理念を使用しており、来年施設長が変わるタイミングで新しい理念を作る予定です。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナウイルスの影響で地域との関りは現在ない。町内会の方とコロナが落ち着いたら関わっていけるよう話しています。	現在はコロナ禍のため自粛していますが、以前は近隣の保育園児の来訪や中学校の吹奏楽会がありました。コロナ収束後には町内会主催のイベントに参加したり、町内会役員に事業所の消防訓練の参加を検討しています。	コロナが収束後、町内会などのイベントへの参加を予定していることから、地域と密なつながりを持てるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナウイルスの影響で地域との関りは現在ない。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナウイルスにより現在会議が中止になっているが報告書をご家族様に送り意見がある場合は取り入れるようにしている。	2ヶ月に1回利用者と家族、職員や民生委員などが参加して運営推進会議を開催しています。コロナ禍のため2020年2月から運営推進会議は開催されていませんが、現在は活動報告書を作成して家族に送付し、電話やメールなどで意見を受け付けています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	現在行政との関りは持っていないです。	地域包括支援センターの地域部会に2ヶ月に1回の参加や、高齢福祉課の職員の来訪などで関係を構築しています。現在は外部との接触を自粛していますが、コロナが収束したら再開させる予定です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に会議を行っている。実際に拘束されているのを体験する研修を行ったりとホームで身体拘束の内容努めている。	3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催しています。身体拘束に繋がるような行動を気づかずに行っていないかなど、各ユニットの職員と話し合うことで情報の共有をしています。実際の拘束を体験する研修も行っており、体験することで支援への実践につなげています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に会議を行っている。身体的、心理的虐待、ケアの放棄等職員で話し合い、おかしいとおもったことはすぐに話し合いを行うようにしている。	2ヶ月に1回、虐待防止に関する会議を行っています。法人がテーマを用意して内容を職員間で検討しています。排泄介助時の対応やスピーチロックについてなど不適切なケアを行わない方法を話し合っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は学ぶ機会を持っていない。成年後見人が新たに就く利用者様がいるため理解できるよう学んでいきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書の説明には時間をかけ利用者様、ご家族の心配が解消されるよう努めている。また転倒リスクや緊急時の協力についても同意頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の意見・要望はホームの運営に反映させている。なにかあればホーム長の方に相談してもらうようにしている。	夏祭りやクリスマスなどのイベントには家族も参加していましたが、現在はコロナ禍により自粛しています。事業所からブログで利用者の様子を紹介しており、家族からの意見・要望は電話やメールなどでも受け付けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロア会議にて管理者が職員からの意見を聞くようにしている。会議以外の場であっても意見を出している。	管理者は日常的に職員と意見交換を行っています。1ヶ月に1回、フロア会議を行い、利用者にとって必要な物品の購入やケアの方法などの意見や提案を協議し、運営に反映させています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	コミュニケーションを良く取ることで不満や悩みがないか確認している。	5年以上就業している職員が多く、勤務シフト体制や休日、休暇の取得は職員の希望に応じています。更衣室も完備し、就業環境の整備をしています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	人員不足の為研修への参加機会が少ないが、リモートでの研修機会が増えたため参加できるようにしていく。	入職時の研修を行っており、1ヶ月のOJT（業務内研修）制度を設けています。職員の資格取得制度も用意し、法人からの費用補助があります。その他の社内研修はリモートを使った参加を可能にし、人材育成に力を入れています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括支援センター主催の交流会があるが現在コロナウイルス流行の為中止となっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前情報や本人との会話の中から、本人の気持ちや好きなこと嫌いなことなどを把握し良好な関係を気づくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所までの経緯や本人の状況、ご家族様が期待していることなどを聞いて安心して頂けるように努めている。 現在はコロナウイルス流行の為機会が少なくなってしまう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	出来る事、出来ない事を明確にしてお互いの協力の元、対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様の悩みや、楽しみを理解して一夫的なケアだけでなく出来る事を手伝って頂いたり共同生活出来る関係を築くようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様にも現在の状況をお伝えし、定期的に電話で連絡して、ご家族様と利用者様でお話しをしてもらい家族が近くにいることを感じていただきサポートしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在面会を一部制限をしている為交流は持っていない。	塗り絵が趣味の利用者が作成した絵はがきを家族に送付するなどの継続支援もしています。コロナ禍の今は、事務所内スペースで短時間の面会となっていますが、例年は家族や親戚の来訪時には外食や散歩に出掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立しないよう利用者様同士の橋渡しになるよう職員が言葉をつなげるサポートを心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今現在はないが、退去後も連絡を頂けるよう家族に話している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人お好きなこと物などを把握している。自分の時間の確保環境づくりを行っている。	利用者の気持ちを理解するよう心掛け傾聴し、好きなことや、やりたいことの手がかりを把握しています。家族から過去の様子を聞いたり、テレビへの反応から判明した情報にも申し送りノートで共有し、自由な時間に実施できるよう配慮しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人お好きなこと物などを把握するようにしている。自分の時間や居室内の環境づくりを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人のサインを見逃さないよう日々の記録を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	会議などで個人のモニタリングアセスメントを行い介護計画に反映させている。	介護計画作成時に家族から手紙や電話で聴取しています。内容を職員で話し合い個別にアセスメントした点を含め6ヶ月ごとに作成しています。3ヶ月ごとに見直し、変化があった際にも作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の様子など具体性に欠ける部分がある。職員間での共有は出来ているので記録記入のレベルを前提的に上げていきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	臨機応変に対応できる体制は取れていると思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウイルスの影響で現在は散歩だけ行っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	昼夜連絡がとれる体制が出来ている。必要に応じてご家族様との連絡をさせて頂いている。	入居見学時に医療の説明をし、原則協力医をかかりつけ医とする旨伝え了解を得ています。月2回の内科往診、歯科医や衛生士の口腔ケアも決めています。他科受診は家族対応です。医療連携の24時間オンコール体制を取っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回医療連携看護師が来て情報の共有が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時こちらの情報等を共有している。現在コロナウイルスの影響で退院に向けてのムンテラは行えないが電話で連絡等してもらっている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人や家族の希望を聞き、主治医を含め話し合いなるべく希望に添える様、支援している。	「重度化した場合の対応にかかる指針」を定め入居時に説明しています。家族が幅広く検討し、選択できるよう配慮しています。様子を見ながら医師、家族、ホームの話し合いでケアプランを作成し、年1回の研修では具体例から学んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急対応についてマニュアルを作成し事故等あったときに対応できるようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	現在地域との交流は持っていないがコロナが落ち着いた後の避難訓練で町内会の人に協力してもらえよう話をしている。	食料や水の3日分を備蓄しています。11月に火災避難訓練をしています。一時避難は1階玄関と2階ベランダ前とし、水害対応は垂直避難となっています。今後、地域の自治会と防災について協力体制を取るための話し合いを行う予定です。	地域と話し合う方向性が見えていますが、より積極的に防災に関して計画し、協力を進めていくことが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	今までの生活リズムや趣味など好きなものが出来る様サポートしている。本人が言われたら傷つくことなど言わないよう意識している。	傷つく言葉について注意するよう努めるなど、利用者主体のケアを日ごろから話し合っています。DVD視聴、塗り絵編み物など趣味・嗜好に応じ、やりたいことを楽しめるサポートをしています。利用者の選択を尊重し、決定できる余裕ある生活リズムを目指しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が選択できるような質問をするよう意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合になってしまう事が多く、利用者様主体で支援できるように努めていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日にどんな服がいいか聞きながら介護をするようにしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る方に食事の盛り付けや片付けなど一緒に行うようにしている。	献立、食材は業者委託で注文し、調理は専門職員が担当しています。利用者もテーブル拭きや食器洗いなど個々のできることを手伝っています。水曜の朝はパン食にしたり、希望のメニューの確認、おやつを一緒に作るなど、食が楽しめるよう色々な工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状態に合わせて対応できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	声掛けや介助にて食事後清潔に保てるようにしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時の声かけや生活リズムで排泄のパターンを把握し失敗を少なく出来る様支援している。	排泄チェック表で個々のパターン把握し、定時に声掛けをしています。介助時、大声での話を控え、ドアを無駄に全開せずにプライバシーに配慮しています。夜間転倒不安の人には安全のためのセンサーやポータブルトイレを使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	牛乳やヤクルト、体操などで身体を動かし予防に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の時間帯が職員都合になってしまっているが、利用者様が不快に思わないような声掛けをおこない、気持ちよく入浴してもらうようにしている。	入浴は週2回、職員が1対1介助で行っています。話が弾み和みの時間となるよう支援しています。冬季はヒートショックに備え、ヒーターを使用しています。乾燥するため入浴後保湿剤も塗布しています。入浴拒否する人には入浴したくなるような雰囲気づくりに気を配っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	安心して眠れるように室温の調整や見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の結果、経過がどうなるかしっかりと観察し、必要があれば見直している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事準備片付け、洗濯ものなど一人ひとりに役割を持っていただき感謝の言葉を伝える様心掛けている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在コロナウイルスの影響で外出は出来ていない。	コロナ禍により散歩などの外出を自粛しています。ホームの周りを一周したり、玄関やベランダで外気を吸うなど試みています。室内でも「えがお」になれるよう配慮しています。歩行を増やすため、ごみ捨ての手伝いや、コンビニエンスストアへの買い出し支援もしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の管理はホームで行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様と電話を出来る様にしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	安心して過ごせるよう清潔に保ち季節の写真や飾りで心地よく過ごせるようにしている。	オープンキッチンのリビングは相互の関係を配慮して3テーブルを配置し、ソファを置いて落ち着くスペースとなるよう配慮しています。温度、湿度はエアコンや加湿器で調整しています。壁は職員手作りの貼り絵の大きな木が季節感を出しています。利用者は居室との間を活発に行き来しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファなど好きに座れるようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時や入居後にも本人の好きなものや使い慣れたものなど持ってきてもらっている。	電動ベッド、カーテン、チェスト、クローゼット、洗面台を備えた居室は危険物以外、好きな物を持ち込みが可能となっています。各室はドアの大きな花の写真が色鮮やかで判別しやすくなっています。担当職員がシーツ交換時掃除機、モップ掛けをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室の目印やトイレのマークなど見て、探してすぐにわかるよう工夫している。		

事業所名	グループホームみんなの家新川崎
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員全員で理念を考え集い共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナウイルスの影響で地域との関りは現在ない。町内会の方とコロナが落ち着いたら関わっていけるよう話しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナウイルスの影響で地域との関りは現在ない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナウイルスにより現在会議が中止になっているが報告書をご家族様に送り意見がある場合は取り入れるようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	現在行政との関りは持っていないです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に会議を行っている。実際に拘束されているのを体験する研修を行ったりとホームで身体拘束の内容努めている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に会議を行っている。身体的、心理的虐待、ケアの放棄等職員で話し合い、おかしいとおもったことはすぐに話し合いを行うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は学ぶ機会を持っていない。成年後見人が新たに就く利用者様がいるため理解できるよう学んでいきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書の説明には時間をかけ利用者様、ご家族の心配が解消されるよう努めている。また転倒リスクや緊急時の協力についても同意頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の意見・要望はホームの運営に反映させている。なにかあればホーム長の方に相談してもらうようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロア会議にて管理者が職員からの意見を聞くようにしている。会議以外の場であっても意見を出している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	コミュニケーションを良く取ることで不満や悩みがないか確認している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	人員不足の為研修への参加機会が少ないが、リモートでの研修機会が増えたため参加できるようにしていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括支援センター主催の交流会があるが現在コロナウイルス流行の為中止となっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前情報や本人との会話の中から、本人の気持ちや好きなこと嫌いなことなどを把握し良好な関係を気づくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所までの経緯や本人の状況、ご家族様が期待していることなどを聞いて安心して頂けるように努めている。 現在はコロナウイルス流行の為機会が少なくなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	出来る事、出来ない事を明確にしてお互いの協力の元、対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様の悩みや、楽しみを理解して一夫的なケアだけでなく出来る事を手伝って頂いたり共同生活出来る関係を築くようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様にも現在の状況をお伝えし、定期的に電話で連絡して、ご家族様と利用者様でお話しをしてもらい家族が近くにいることを感じていただきサポートしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在面会を一部制限をしている為交流は持っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士のトラブルなく楽しく過ごせるように会話の橋渡しなど行い支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今現在はないが、退去後も連絡を頂けるよう家族に話している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様と十分に話をして思っていること、希望など把握するように努めている。その時に必要なものなど確認し用意できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者様、ご家族様から情報を得て把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1人1人の顔を見て挨拶し、いつもと表情や声に変化がないか把握するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	話し合いの場を持ち利用者様が同生活が指定のか把握し家族様からも情報ももらい、利用者様にも確認してもらう。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録を用いて気づいたことなど記入し情報を共有し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族や本人からの願いは可能な限りかなえられるようあれはダメなど決めつけに用いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現在はコロナウイルスの影響で外との関りが絶たれている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	なるべく薬を増やさないでほしいという家族に対してそれをかかりつけ医に伝えそのうえで出来る事を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療関連の記録にて情報の共有をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時こちらの情報等を共有している。現在コロナウイルスの影響で退院に向けてのムンテラは行えないが電話で連絡等してもらっている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	その人にとって安心した生活ができるよう職員で話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	訓練は行っていないが、緊急時はすぐにホーム長、かかりつけ医に連絡し対応している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	利用者様の移動方法など共有している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	誇りを傷つけないように声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	答えの決まっている質問ではなく選択肢の持てる質問をするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	現在職員主体になってしまっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出来る限り自身で洋服を選べるようにしている。自分で選べない人も同じ服が続かないようにしている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	片づけを手伝ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	記録にて摂取量を把握し必要に応じて介助などしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアをしてもらっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	声掛けや介助にて清潔に保てるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	乳製品などを使用し便秘にならないようにしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	午前中、午後など出来る限りいつ入りたいか確認しできるだけ意向に合わせて入浴してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個別の状態を把握し必要に応じて、昼寝などおこない、利用者様が自分のペースで過ごせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情で薬を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	1人1人の楽しみ、気分転換が出来るように利用者様の今までの生活を確認し楽しく過ごしてもらるようにしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在コロナウイルスの影響で外出はしていない。玄関での外気欲をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の管理はホームで行っているが、本人が買いたいものなどは家族に伝え買えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話したいと言われたら繋ぐようにしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の飾り付け等している。車いすの人にも見やすいようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファなど自分の好きなところで過ごしてもらっている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使っていたもののどを置くことで落ち着き、安心感が得られるよう配慮し、ご家族様にも協力して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様が安全に過ごせるよう話し合い環境整備に努めている。		

2021年度

事業所名 グループホームみんなの家・新川崎

作成日： 2022年 2月10日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	○事業所と地域とのつきあい コロナ禍ということもあり、地域との交流が一切行われていない	・近隣の地域包括支援センターへ行き地域の状況などをリサーチする。そこで相性の良いところがあれば交流を深めていきたい	・実際に地域活動を実施しているグループなどにアプローチして今後の活動に反映できるようなことがあるかどうか検討する。	12ヶ月
2	60	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	・要望があっても現実的に叶えられていない現状である。遠出、人混みを避けて出来るような散歩、庭の花壇、畑などで屋外に行くきっかけを多く作る	・日中の天気の良い日には散歩に行けるよう時間をつくる。暖かくなってきたので外の空気に触れるよう花壇の手入れ、畑で野菜の栽培などを積極的に外に行く動機をつくる	1ヶ月
3	63	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	・ご家族様との交流も出来ておらず、現状電話、一言通信での手紙でのやりとりです。日頃の状況はブログを通じて発信していますが見ていない人もいますので、手紙をより具体化させたものに改善したい	・一言通信ではご利用者様だけではなく、ホームでの出来事をご家族様向けにも発信するものを作成しました。より身近に事業所での活動を知っていただくだけでなく具体性とオープンな施設づくりの観点に注視しました。	1ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月